

授業科目名	キャリアデザイン（Ⅰ）	単位数	Ⅰ
担当教員名	安部 雅昭・古川 潔	担当形態	オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己実現に向けた生き方や働き方の構想を描く。 ・自己理解を深め、現在あるものをマネジメントすることで、環境肯定感を高め、課題解決に向けた思考ができるようにする。 			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>自身が主体となり、自分らしい「生き方」や「働き方」を構想し実現するために、客観的に自己を捉え、「何を大切に生きていくのか」「どのような社会参加をしたいのか」について考え、自己実現に向けた目標を設定することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 分析シートやワークを通じて、自分の能力やニーズについて自己理解を深める。 ② 今の環境を肯定的に捉え、課題解決にむけた行動するためのスキルを磨き、自己の能力の増強を図る。 ③ 自身が主体となり、肯定的な考え方で自分らしい生き方や働き方を構想し、その一歩となる社会体験をする。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：自分はどう生きるのか？ ～ どんな生き方をしたいか</p> <p>第2回：キャリアとは何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の価値観を知る ・自分のできることを知る ・自分の環境を知る ・自分の Being を知る <p>第3回：「どう生きるか」と「どう働くか」の関係を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外的キャリアとは ・内的キャリアとは ・どちらが満足するか <p>第4回：チャンスをつかみ取る！ ～ セレンディピティとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャンスを生み出す5つの行動指針（好奇心・持続性・楽観性・柔軟性・好奇心） <p>第5回：自分らしい生き方とは ～ ライフキャリアの虹</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きがい ・時間 ・役割 <p>第6回：自己理解を深める① ～ 自分の中の5人の自分 エゴグラム</p> <p>第7回：自己理解を深める② ～ マインドセット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習慣化された思考のパターン ・マインドセットの自己評価 ・マインドセットは変えられる <p>第8回：自己理解を深める③ ～ 聴き方（傾聴・共感）</p> <p>第9回：自己理解を深める④ ～ 見方を変える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リフレーミング ・プラスのブフィードバック <p>第10回：自己理解を深める⑤ ～ MI(多重知能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知能個性を図にしてみよう ・マルチアイデンティティで行くよ！ <p>第11回：自己理解を深める⑥ ～ MIを活かして自己発見（自分のいいところ発見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題発見発見トレーニングで自己発見 			

<p>第12回：他者理解を深める① ～ MIを活かして他者プロデュース（他者のいいところ発見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リソースとは ・〇〇さんのリソースって？ <p>第13回：他者理解を深める② ～ リソースに価値をつけよう（人間の価値）</p> <p>第14回：他者理解を深める③ ～ リソースに社会的価値をつけてビジネスにしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン思考 ・成功するイノベーターとは <p>第15回：レポート 1回から15回までの レポート・ワークシートをまとめ、ポートフォリオを作成し、自己アピールをする。</p>
<p>スクーリングでの学修内容</p> <p>上記 1回～15回までをスクーリングで実施する。</p>
<p>教科書</p> <p>なし ※ 大学作成のワークシートを利用します。</p>
<p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「未来を拓くキャリアデザイン講座」（中央経済社） 「働き方の哲学」 ・藤原和博『藤原先生、これからの働き方について教えてください』ディスカバー21 ・村山昇『働き方の哲学 360度の視点で仕事を考える』ディスカバー21
<p>学生に対する評価</p> <p>スクーリング評価（50%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。</p>